

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

村上市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（R6は国語、算数・数学）

ア 出題内容

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問う。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

ア 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 結果

(1) 平均正答率

〈令和4年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
村 上 市	64	61	64	66	44	—	44
新 潟 県	66	62	63	68	50	—	49
全 国 （ 公 立 ）	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	—	49.3

〈令和5年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
村 上 市	67	61	—	68	45	38	—
新 潟 県	67	62	—	70	49	41	—
全 国 （ 公 立 ）	67.2	62.5	—	69.8	51.0	45.6	—

〈令和6年度〉	小 学 校			中 学 校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
村 上 市	68	60	—	51	43	—	—
新 潟 県	67	61	—	57	50	—	—
全 国 （ 公 立 ）	67.7	63.4	—	58.1	52.5	—	—

ア 小学校

① 国語

- ・市の平均正答率は、全国と同程度であった。
- ・正答数分布は、上位層、中位層、下位層と全国並であった。
- ・学習指導要領の内容別では、知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等における「読むこと」などが全国を上回った。一方で、知識及び技能における「情報の扱い方に関する事項」、思考力・判断力・表現力等における「話すこと・聞くこと」が全国を下回った。
- ・問題形式別では、全国と比べて「短答式」「記述式」が上回り、「選択式」が下回った。
- ・問題別では、半数以上の問題で全国を上回った。特に、主語と述語との関係を捉えることができるかをみる問題、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題の平均正答率が高かった。一方で、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかをみる問題などで課題が見られた。

② 算数

- ・市の平均正答率は、全国を大きく下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のすべてが全国を下回った。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。
- ・問題別では、ほとんどの問題で全国を下回った。特に、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかをみる問題、速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題、速さの意味について理解しているかをみる問題で課題が見られた。

イ 中学校

① 国語

- ・市の平均正答率は、全国を大きく下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等とともに全国を下回った。特に知識及び技能における「我が国の言語文化に関する事項」や思考力・判断力・表現力等における「書くこと」などに全国との大きな差が見られた。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回り、特に「記述式」に全国との大きな差が見られた。
- ・問題別では、すべての問題が全国を下回った。特に、表現の効果を考えて描写するなど自分の考えが伝わる文章になるよう工夫できるかをみる問題、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかをみる問題、行書の特徴を理解しているかをみる問題などに全国との大きな差が見られた。また、「記述式」の問題の無解答率が全国と比べて高かった。

② 数学

- ・市の平均正答率は、全国を大きく下回った。
- ・正答数分布は、全国と比べて上位層が少なく、下位層が多かった。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と計算」「図形」「関数」「データの活用」のすべてが全国を下回った。特に「数と計算」は、全国との大きな差が見られた。
- ・問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてが全国を下回った。特に、「短答式」「記述式」で全国との大きな差が見られた。
- ・問題別では、すべての問題で全国を下回った。特に、等式を目的に応じて変形することができるかをみる問題、文字を用いた式で表すことができるかをみる問題、式を変形したりその意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる問題などに全国との大きな差が見られた。また、「記述式」の問題の無解答率が全国と比べて高かった。

(2) 学校別平均正答率

ア 小学校

- ・ 国語において全国を上回ったのは、13 校中 6 校だった。
- ・ 国語の最大学校間差は、22 ポイントだった。
- ・ 算数において全国を上回ったのは、13 校中 2 校だった。
- ・ 算数の最大学校間差は、25 ポイントだった。

イ 中学校

- ・ 国語において全国を上回ったのは、7 校中 1 校だった。
- ・ 国語の最大学校間差は、15 ポイントだった。
- ・ 数学において全国を上回ったのは、7 校中 2 校だった。
- ・ 数学の最大学校間差は、26 ポイントだった。

課題 2 学校間差の解消

(3) ICT 利活用 ※質問紙結果

ア 小学校

* ()は全国(公立)

* 【 】はR5より追加

*R6より質問項目が変更

質 問 事 項	R 4	R 5	R 6
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度利用しましたか《ほぼ毎日の割合》	39.1 (26.7)	36.7 (28.2)	28.6 (25.3)
学習の中でPC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか《肯定的意見の割合》	96.7 (94.4)	95.8 (95.1)	—
【学校の授業時間以外に、】普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のためにどの程度使っていますか《30 分以上の割合》	49.5 (43.8)	45.5 (41.1)	—

- ・ 授業において ICT 機器をほぼ毎日利活用している割合は全国を上回った。

イ 中学校

* ()は全国(公立)

* 【 】はR5より追加

*R6より質問項目が変更

質 問 事 項	R 4	R 5	R 6
1・2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度利用しましたか《ほぼ毎日の割合》	29.4 (21.6)	27.0 (28.1)	33.2 (31.0)
学習の中でPC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか《肯定的意見の割合》	93.4 (92.6)	94.7 (93.3)	—
【学校の授業時間以外に、】普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のためにどの程度使っていますか《30 分以上の割合》	37.6 (40.8)	29.2 (31.2)	—

- ・ 授業において、ICT 機器をほぼ毎日活用している割合は全国を上回った。

課題 3 ICT 機器の日常的な利活用

(4) 家庭学習 ※質問紙結果

ア 小学校

* ()は全国平均(公立)

質 問 事 項		R 4	R 5	R 6
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等含む）	1時間以上の割合	68.0 (59.4)	66.5 (57.1)	64.8 (54.6)
	2時間以上の割合	13.5 (25.1)	13.7 (25.6)	15.2 (23.5)

- ・ 学校の授業以外に1日当たり1時間以上学習する児童の割合は全国を上回った。2時間以上学習する割合は全国を下回った。

イ 中学校

* ()は全国平均(公立)

質 問 事 項		R 4	R 5	R 6
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等含む）	1時間以上の割合	64.9 (69.5)	66.0 (65.8)	56.0 (64.3)
	2時間以上の割合	14.5 (35.2)	14.4 (33.7)	14.6 (31.7)

- ・ 学校の授業以外に1日当たり1時間以上学習する生徒の割合は全国を下回った。2時間以上学習する割合も全国を下回った。

課題4 家庭学習の時間と内容の改善

5 今後の取組

(1) 課題1の解決に向けて

- ・ 児童生徒が集中して学習することができる環境づくりを推進する。（市校長会議における指導、市学力向上研修会、市による学校支援）
- ・ 市や各学校において学力の実態を把握し、それに基づいた手立てを共有することで授業改善につなげる。（市校長会議における指導、市学力向上研修会）
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「村上市の授業づくり」を土台とした授業改善の取組を継続する。特に、学習課題を自分事と捉えて粘り強く取り組むこと、学習課題に対する自分の考えや授業内容の振り返りを文章にして書くことを重視していく。（「村上市の授業づくり」に係る計画訪問、市学力向上研修会）
- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得とそれに基づいた活用にかける時間の確保を全校体制で推進する。（市校長会議における指導、市学力向上研修会）
- ・ 外国語の授業において、特に英語を介して教師や児童生徒とコミュニケーションをとることができるように学習活動を工夫する。また、小・中学校が連携し、指導の内容や方法の共有を図る。（県教科教育専門監活用事業）
- ・ 小・中学校ともに、国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」及び、「にいがた学びチャレンジ」を活用した校内研修を継続し、授業改善を推進する。（市校長会議における指導、市学力向上研修会）

(2) 課題2の解決に向けて

- ・ 市や各学校の学力の実態を共有し、中学校区の小・中学校の教員で手立てを検討する。（市学力向上研修会）
- ・ 中学校区の小・中学校相互の授業参観やそれに基づいた情報交換を推進する。（市校長会議における指導、各校の校内研修）
- ・ 小・中学校の学力向上に係る取組の好事例を共有する。（市校長会議における指導、市学力向上研修会）
- ・ 「村上市の授業づくり」に係る計画訪問における授業実践の具体を小・中学校で共有する。（市学力向上研修会、市校長会議における指導）

(3) 課題3の解決に向けて

- ・ 教師用・学習者用端末の計画的な入れ替えや不具合への対処など、ICT 機器を活用するための環境整備を推進する。(市)
- ・ 教科等の学びを深めるためのツールとして ICT 機器を活用できるように、授業での実践例を共有する。(市による各種 ICT 研修会、ICT 推進リーダー情報交換会、市校長会議における指導、「村上市の授業づくり」に係る計画訪問)
- ・ 教員の ICT 機器の活用スキル向上を図る。(市による各種 ICT 研修会、ICT 支援員による学校訪問、提携業者によるヘルプデスクの設置)

(4) 課題4の解決に向けて

- ・ 小・中学校ともに計画を立てた上で家庭学習に取り組むことを促す。具体的には、終学活等にその日の家庭学習の計画を立てるプランニングタイムの実施や中学校区における家庭学習習慣やメディアコントロールの取組を今後も継続する。(市学力向上研修会、市校長会議における指導)
- ・ 家庭学習についての各校の取組における好事例を共有する。(市学力向上研修会、市校長会議における指導)
- ・ 年度末の「家庭学習実施状況調査」において各校の成果と課題を明らかにするとともに、各校における次年度に向けた具体的方策を設定させる。それらは市で集約し、各校へ配付する。(家庭学習状況調査報告)